

# 若い人もベテランも助け合い、 自分達にしか出来ないものづくりを。

難波美鈴

試験室

学生時代に服飾を学び、販売職を経験後、一旦は繊維業界から離れたものの、地元に戻る際に仕事を探すと地場産業である繊維関係の仕事が多かったことから現在の会社に就職した難波さん。入社当時は仕上げを担当していましたが、4、5年経った頃、試験室で染色をやってみないかと声を掛けられ、経験のない自分にできるだろうかと悩みましたが、ダメでもいいからやってみることにしました。それから30年近く経った現在も、試験室でピーカーと呼ばれる試験染色を行う工程を担当しています。「染料を調べて、お客様の求める色に染める作業をしています。色は素材や光の当たり具合で出方や見え方が変わるので、依頼に添えられたコメントなどから微妙な色のニュアンスを読み取り、自分の経験や感覚、過去のデータを元に色出しをしています。1、2回で思う色が出せることもありますし、10回近くやっても出せないこともあります。そんなときは、社長や同僚に相談したり、過去のデータを見直したりしながら試行錯誤を繰り返すのですが、お客様の要望通りの染色ができたときはすごく嬉しいですね。」

近年、環境への配慮やSDGsへの関心が高まっていることから、同社でも、天然染料を使用した加工に力を入れており、現在、難波さんは草木染めも担当しています。「草木染めは媒染剤によって様々な色味が出せたり、加工をひと手間加えることで色に深みが出せたりするので、色の変化を楽しみながらサンプル作成に取り組んでいます。」

「ニッセンファクトリーの強みは長年の経験と実績をベースに自由な発想でものづくりが出来ること。社長含め社員同士が気兼ねなく話せる雰囲気の中、ベテランと若手スタッフの技術や発想が融合した自分達にしかできないものづくりをしていきたいです。」



## もっと生の声

### Q & A

- 思い出に残るエピソードを教えてください。  
弊社が携わった製品を韓国の超人気アイドルグループがミュージックビデオで着用してくれていたことです。そのことを社長から聞いたときは、社員みんなで大喜びしましたね。
- 今後取り組んでみたいことはありますか？  
不要になった洋服や小物を染めるインディゴ染体験です。コロナ禍前は得意先のイベントで行っていたのですが、しばらくできていないので、またできるようになるといいなと。SDGsが浸透してきている今、愛着はあるけど着られなくなった洋服などをインディゴ染めすることでもう一度楽しんで使ってもらえたらと考えています。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。  
“自分の手でものづくりをする”のはとても楽しいことです。作る側の仕事に興味を持ってもらって、若い人達にもどんどん、ものづくりの世界に入ってきてもらいたいです。